

2024年度 科学技術英語特論・演習の成績結果について

担当：小堀 聡

2024年度第1学期においていくつかの授業がオンラインあるいはハイブリッドで実施されたが、本科目は従来通りの対面での授業（一部ハイブリッド対応）を実施した。

また、2024年度より先端理工学研究科電子情報通信コースとなったが、本科目の授業内容は従来から変更は特にない。この科目では、英語について、読解だけでなく、聞き取り、読み上げ、英作文なども含めて、英語能力の総合的な向上を目指した。

初回では、ガイダンスと実力確認テストを行い、2回目からの9回では、発音・スピーキング・リスニング、文法の基本、科学技術英語の基本・語彙について講義した。さらに、11回目からの5回では、分野別の演習として、卒論要旨英訳および英語口頭発表を行った。

成績の評価は、平常点：20点、演習：40点、定期試験：40点により行った。

受講登録者17名は全員合格であったが、その内訳は90点台：0名、80点台：7名、70点台：6名、60点台：4名であった。

また、平均点76点で、90点以上がおらず、60点台が4名もいることから、大学院科目としては残念な成績であったと言える。特に、後半の演習（卒論要旨英訳と英語発表）について取り組みが十分でなかった人がいたこと、また、定期試験も個々の問題については不十分な解答が多く見られた（2番の問題についてはあらかじめ準備ができるのにそれを怠っているケースが散見された）ことを考えるならば、まだまだ科学技術英語についての努力を続ける必要があることは明らかなと思う。

英語は、大学院での研究を進めるうえで必須であるだけでなく、修士課程を修了した者として、当然身につけておくべきスキルであるので、引き続き、英語学習にも真摯に取り組むようにしてほしい。

以上